種類と生態

ウンカの種類と生態

イネの害虫として知られるウンカ類には**トビイロウンカ**（写真 1a）、**セジロウンカ**（写真 1b）、**ヒメトビウンカ**（写真 1c）の３種類がいます。ウンカはイネの葉や茎に口吻（こうふん）（針のような口）を刺して養分を吸います（「吸汁」と呼びます）。３種類のウンカの見た目はよく似ていますが、その生態はいろいろと違います。この違いがウンカの防除にも関係しています。

トビイロウンカはイネ以外を吸汁できず、日本では冬を越すことができません。毎年、ベトナム北部・中部などの暖かい地帯から中国南部に移動し、そこで２、３世代経過した後、梅雨時期に東シナ海上に吹く強い風（下層ジェット気流）に乗って日本に飛来します（９ページの図１参照）。飛来したトビイロウンカは水田のイネに卵を産み、約１カ月で次の世代の成虫が出てきます。秋までに３世代増殖して数がさらに増え、刈り取り間際のイネがウンカの吸汁に耐えられずに枯れてしまう現象が「坪枯れ」（写真２）です。「坪枯れ」は深刻な被害をもたらします。

セジロウンカもトビイロウンカと同様にイネ以外を吸汁できず、日本では冬を越すことができません。また、トビイロウンカと同様に梅雨時期に中国南部から飛来します（９ページの図１参照）。飛来した次の世代で個体数がピークに達しますが、多くの個体が水田から飛び立ってしまい、それ以降は水田ではあまり増えません。このため、セジロウンカによる「坪枯れ」はめったに起こりませんが、この虫は最近発見されたイネの病気、イネ南方黒すじ萎縮病の原因となるウイルスを媒介します。現在は大きな被害をもたらすほどではありませんが、今後注意が必要です。

ヒメトビウンカはイネ以外にも麦やイネ科雑草などを吸汁し、日本で越冬できます。他の２種類より体が小さく、吸汁による被害はほとんどありませんが、イネ縞葉枯病のウイルスを感染させます。これまで、長距離の移動はないと考えられていましたが、最近、東シナ海を越えて飛来することがわかりました。2000年頃から江蘇省など中国東部でヒメトビウンカの大発生が起こり、2008年６月に九州地域などの西日本に飛来しています。中国での大発生は一時期に比べてピークを過ぎたものの、殺虫剤が効きにくく、ウイルスを持っている個体も多いので海外からの飛来に注意する必要があります。

【生産環境研究領域　真田 幸代】

写真１　ウンカ３種類の長翅型の雌雄成虫

写真２　トビイロウンカの吸汁による坪枯れ

上：初期の坪枯れ（2007 年 9 月 , 熊本県菊池市）
下：水田全体に広がった全面枯れ（2014 年 10 月 , 熊本県山鹿市）